

第11回 計画審議会 会議録

召集年月日	平成 28 年 8 月 1 0 日 (水)			
召集の場所	白馬村保健福祉ふれあいセンター			
開閉会の日時	開会	午後 2 時 00 分		
	閉会	午後 4 時 30 分		
出席者数	35名出席 (庁内ワーキンググループメンバー16名を含む)			
出席者 (計画審議会)	区分	役職名	氏名	出席
	教育委員会委員	白馬村教育委員会委員 (会長)	伊藤 公一	○
	公共的団体の役職員	白馬村体育協会会長 (副会長)	山岸 忠	○
	教育委員会委員	白馬村教育委員会委員	塩島 弘之	
	農業委員会委員	白馬村農業委員会会長	松沢 正猛	
	公共的団体の役職員	白馬村民生児童委員	矢口 緑	○
	公共的団体の役職員	白馬商工会長	杉山 茂実	
	公共的団体の役職員	区長会会長	平塚 茂雄	
	公共的団体の役職員	白馬村消防団団長	丸山 義行	
	学識経験者	まちづくり白馬友の会会長	松澤 恵也	○
	学識経験者	神城婦人会会長	田中 みつる	○
	学識経験者	北城婦人会会長	眞島 宣子	○
	学識経験者	白馬村スキークラブ会長	太谷 陽一	○
	学識経験者	白馬村シニアクラブ会長	下川 辰男	○
	学識経験者	大北農協白馬支所長	内川 武文	
	学識経験者	白馬村索道事業者協議会会長	駒谷 嘉宏	○
	学識経験者	白馬村観光局事務局長	福島 洋次郎	○
	学識経験者	白馬村ボランティア連絡協議会会長	太田 洋子	
	学識経験者	特別養護老人ホーム白嶺所長	竹本 登美子	○
	学識経験者	白馬村金融団幹事長野銀行白馬支店長	宮島 賢次	○
	学識経験者	白馬村建設業組合長	塩島 正	
	学識経験者	観光地経営計画委員	ケビン モラード	○
	一般公募	公募委員	宮脇 哲也	○
	一般公募	公募委員	藤田 直子	○
一般公募	公募委員	富山 正明	○	
一般公募	公募委員	高田 愛史		
事務局	白馬村役場 総務課長	吉田 久夫	○	
事務局	白馬村役場 総務課 企画係長	田中 洋介	○	
事務局	白馬村役場 総務課 企画係 主査	渡邊 宏太	○	

出席者 (庁内ワーキンググループ)	住民課	課長補佐兼環境衛生係長	田中 哲	○
		住民係長	小日向 純代	○
		主査	太田 千恵	
	税務課	課長補佐兼徴収係長	関口 久人	○
		課税係長	鈴木 広章	○
		主査	山岸 大祐	
	健康福祉課	健康福祉係長	太田 雄介	○
		健康づくり係長	工藤 弘美	○
		介護保険係長兼地域包括支援センター長	内山 明子	○
		主事	鷺澤 友也	
	建設課	課長補佐兼建設係長	田中 敏明	○
		維持管理係長	横山 勝典	
		主事	篠井 太郎	
	農政課	課長補佐兼農林係長	下川 啓一	○
		主事	山岸 大輝	○
	上下水道課	管理係長	太田 裕史	
		業務係長	長澤 秀美	
		上下水道係長	横山 廣毅	
		主任	堀米 拓実	○
	観光課	観光係長	長澤 肇	○
主査		一井 剛	○	
教育課	教育係長兼副公民館長	遠藤 裕子	○	
	主査	降旗 大輔	○	
スポーツ課	課長補佐兼スポーツ係長	松澤 宏和		
	主任	大塚 敦司	○	
会計室	主査	塩島 広幸		
総務課	課長補佐兼総務係長	田中 克俊		

1. 開会

第 11 回計画審議会の開会を宣言した。

2. あいさつ

<会長>

前回から時間が空いてしまい、観光シーズンの忙しい時期となってしまったが、お集まりいただいたことに感謝する。これまで「白馬アイデアキャラバン」として村内外で意見を拾ってきたものが計画に反映されていると思うので、審議していただきたい。また、今回は庁内ワーキンググループのメンバーも同席しているため、積極的な双方向の意見交換をお願いしたい。

9月の仕上げに向け時間が無い状況であるが、策定に向け協力をお願いしたい。

<総務課長>

昨年度から数えて審議会も 11 回目となるが、実質的に顔を合わせての審議は今回が最後になると思われる。これまでは審議会と庁内ワーキンググループとそれぞれ議論してきたが、それらを組み合わせた現時点での基本計画（案）をお示しさせていただいている。本日お配りしたものは事前配布から一部修正している部分もあるが、ご了承いただきたい。

事務局だけであらゆる質問に回答することは難しいが、今回は各課より職員が出席しているため、遠慮なく質問や意見をいただきたい。また、昨年度から継続して多大なご協力をいただいたことにお礼申し上げる。

[観光局事務局長紹介]

6 月から就任させていただいている。夏の集客状況はあまりよくないと聞いているが、様々な形で観光事業者を支援していきたい。新しい企画として、白馬で素敵な暮らしをしている“人”に焦点を当てた動画を Web で発信している。ここに住む“人”も魅力・財産であり、白馬高校での“学び”もまた財産である。この地で学んだ生徒が未来の白馬を背負って立つと考えており、観光局としても応援していきたい。白馬村においては、総合計画における観光の役割は大きいと思われるため、限られた時間であるが尽力したい。

3. 報告

<事務局>

昨年度のインタビューや白馬アイデアキャンプに続き、今年度も住民等に参加してもらい意見を聴く場を多数設けてきた。5 月 24 日のキックオフワークショップには約 60 名の方にご参加いただき、studio-L 代表の山崎亮さんから今後の人口減少社会におけるコミュニティのあり方や他の地域での事例についてお話

を伺った後、参加者が「自分にできること」と「白馬に必要な人・スキル」を考え意見交換した。その後、6月にエリアキャラバンとして、村内3か所で各地区の抱える課題やそれを解決するためにすべきことを参加者から聞いた。7月12日には村外の白馬村出身者や白馬ファンなど約70名にご参加いただいて東京でワークショップを開催した。はじめに村長と山崎亮さん、そして村と連携協定を締結しているヤフーの宮坂社長の鼎談を行ったうえで、参加者にとっての豊かな暮らしや白馬ならではの豊かな暮らしについて意見交換した。一連のワークショップで出された意見など、詳しくは資料としてお配りした「白馬アイデアキャラバン便り」をご覧いただきたい。

また、先週末にこれまでのまとめとして、意見を聴くだけでなく実際に行動に移すことを目的として、村内外の人によるワークショップを開催した。移住だけでなく二地域居住を推進したいという意見や村内外の人交流する場づくりをしたいという意見があった。結果については後日ホームページにアップする。

4. 協議事項

暮らし・産業・ひと・自然の4グループに分かれ、審議会委員と庁内ワーキンググループメンバーによる意見交換を実施し、各グループでの協議を発表・共有した。

【暮らし】

区の加入率向上について、ごみ集積場の問題と合わせて検討してほしい。

集落支援員とは？→国の財源措置がある制度で、地区担当職員が担えない部分を、総合的に支援する形で活用したい。

ケーブルテレビは加入率を高めるのはもちろんだが、文字放送ばかりではなく解り易く伝える内容を考えてほしい。特に災害時の対応について、神城断層地震を活かして早急に情報発信をしてほしい。

支え合いマップについて、民生委員等を中心にしっかりと地域内を把握して更新を行ってほしい。

日赤奉仕団が速やかに動けるよう、指揮命令系統等体制を整備してほしい。

【産業】

観光客を増やすため、受皿整備として外部の資本をどう考えるのか方針を記載してほしい。それが難しいということであれば、宿泊施設の収容力と質を高めるような文言を追記してほしい。

観光地経営計画のうち、行政が担うべきことだけを記載すればよいのではないか。

観光に関する開発と、環境や景観とのバランスについて、不整合が生じないようにしてほしい。

観光客入込数については正確な数値とは言い難いと思うが、KPIとして設定しても良いのか。→他に数値化できるものがないため、現状ではそれをKPIとして、今後データ整備を進めたい。

冬季観光客入込数は「スキー場と宿泊拠点の再生」のKPIとして、受入環境整備については文章で書かれているような実際に整備するものをKPIに設定した方がよいのではないか。

観光に関して、中を磨くことだけでなく、情報を発信することも記載した方がよいのではないか。

地産地消認定制度については、どのような基準を考えているのか。米以外の農産物について生産量を

確保できるのか。→今後検討する予定で現時点では決めていない。

東山の活用について、農政課（森林整備）と観光課（コース整備）を連携して進めてほしい。また、既存ルートの活用だけでなく、新たなコースの造成も検討してほしい。

【ひと】

ICT 教育については物品を導入して学校に任せるだけではなく、ソフトや活用の支援も検討してほしい。

白馬高校については県立高校のことを KPI にするのは避け、公営塾の社会教育への拡大についても検討してほしい。

文化芸術振興は、コンサート入場者だけでなく、他のイベントも指標に盛り込むようにしてはどうか。

スポーツについて、大人が楽しむことも含めて全体的に肉付けしてほしい。また、子どもの育成から世界へ挑戦し、指導者として戻ってくるようなストーリーを語ってほしい。

村外者を対象としたスポーツイベントや、ジャンプ競技場のリフト乗車人数の KPI は、観光分野（産業）に記載した方がよいのではないか。

幼児期の学びの支援（私立幼稚園就園奨励補助制度）は「暮らし」の子育て支援に移した方がよいのではないか。

【自然】

水を大切にできる意識を高めることや、名水百選に選ばれている姫川について強調してほしい。

自然を活用した子どもたちの教育（自然体験教室、サバイバルキャンプなど）を盛り込んでほしい。

村民が登山に親しむよう啓蒙してほしい。特に子どものうちに山に登ることを奨励してほしい。

ごみ減量化について、意識を高める取り組みを記載するべき。

「4R」は言葉を知らない人も多いと思われるため、説明文を注記するべき。

森林整備にもつながるが、下草刈りも含めて白馬村の玄関口を美しく見せる取り組みをしてほしい。

塩の道を歩いても休憩するところがないため、ベンチ等を設置してほしい。塩の道も含めて観光施設・資源の維持管理をしっかり行ってほしい。

世界水準の観光地にふさわしい開発基準については、エリアを分ける等の対応が必要では。また景観を阻害する要因としては大きさよりも高さが問題となる。

5. 閉会

<事務局>

本日の審議会で出された意見を反映したうえで、計画案に対してパブリックコメントを実施したい。委員からの意見も継続して受け付ける。

<公募委員>

審議会として村長に答申する形になるのではないか。

<事務局>

基本構想部分については議決を得る必要があるため 3 月に答申をいただいたが、基本計画について

は審議会委員と一緒に作ったという形を取らせていただいたということでご理解いただきたい。

<会長>

委員各位のこれまでの協力にお礼を述べ閉会を宣言した。